

バスケの真の魅力とは？

【Dr. 辻のバスケ考】

感動は、一生懸命な姿からもたらされる



アジア大会で8位に終わった日本代表のプレイは、人々に感動を与えられたのだろうか。

日の丸を背負った選手は模範となるべき存在

ジャバンの結果は至上最悪のものとなってしまいました。日本は徳島で7月の末に開かれていた北京オリンピック予選のアジアバスケ選手権でことです。まずは地上波での放送

がないので気にしているのにじっくり観られないのがゆさがありました。皆さん、いかがでしたか？バスケ関係者として少なくとも興味ありますし、応援をしたいと思っているのに、新聞やニュースでもほとんど取り上げられなくて…。

のではないで気にしているのにじっくり観られないのがゆさがありました。皆さん、いかがでしたか？バスケ関係者として少なくとも興味ありますし、応援をしたいと思っているのに、新聞やニュースでもほとんど取り上げられなくて…。

そして、スポーツの原点は成長です。今ある選手たちが成長して、結果にふさわしく変化していくことこそが、多くの人たちにとって魅力なのでないでしょうか？自分たちもあなろうと… ああすれば、不可能と思えたことも努力によって、なしえるのだと。そこに共感があり、魅力を感じるのだと思います。

昨今の競争巨人の魅力半減はまさにこのスポーツの原点がなからず

さて、マスコミにも取り上げられないジャバンのバスケ、結果も出なかったジャバンのバスケ、バスケファンの皆さんはどう感じましたか？魅力あるチーム？魅力ある活動だったのでしょか？私にはそう思えなかったのですが… どうしてなのか、私なりに考えてみたいと思います。

ジャバンですから当然、結果を出さないといけない宿命にありますよね。しかし、結果を出さずとも、外国人の帰化で強化するというところに何か魅力を感じさせないものがあったのは、私だけでしょうか？ジャバンはスポーツの原点を皆に知らせるロールモデルの役割でもあります。多くのファンやバスケ・プレイヤーの模範でないといけないと思っています。

観客にとって魅力のあるチームはチームワークを感じさせる。仲間についていって感じるチームではないでしょうか？その向こう側に勝利があれば、なおいい！なぜなら勝つことはいつもできないですが、いいチームワークを作り仲間を感じるチーム作りは誰でも努力すればできるからです。そういう日本のバスケ関係者がすべてあこがれ、目指せるようなロールモデルのチームこそジャバンであってほしいと、私は願っています。

はたしてでしょうか？金と権力でいい選手をFAなどで獲得して勝つというやり方ですね。育つたというより集めたというチーム作りです。ただ勝てばいいのかという疑問が魅力を半減させるのではないかと私は思います。

ただ巧いだけでは感動は与えられない

観客にとって魅力のあるチームはチームワークを感じさせる。仲間についていって感じるチームではないでしょうか？その向こう側に勝利があれば、なおいい！なぜなら勝つことはいつもできないですが、いいチームワークを作り仲間を感じるチーム作りは誰でも努力すればできるからです。そういう日本のバスケ関係者がすべてあこがれ、目指せるようなロールモデルのチームこそジャバンであってほしいと、私は願っています。

次に感動です。感動を日本中にもたらすチームとは？人に感動を生

むのは勝利だけではありません。感動は一生懸命にやる姿によって、もたらせるのだというのを忘れてはいけません。素晴らしいプレイヤーの感動はただ上手なだけでなく、そこに一生懸命な姿や姿勢があることが、人の心を打つのです。ジャバンにそれがなかったとは決していいませんが、常に全員がそうであったのかという子どもの問いに確信をもって「そうだよ」と言えない自分がいることも確かです。感動枯渇の日々の生活で私たちは、バスケでそんな感動を熱望しているのではないのでしょうか？

そんな人間の必須ビタミン、成長・仲間・感動をジャバンに望んでいるのが私たちファンです。そんなビタミンがあれば、私たちはバスケで元気になるのだと知ることができるのです。何より、ジャバンにいる一人ひとりの選手が成長・仲間・感動を感じて、一番元気でいてほしい。そうすれば、結果もついてくるのだと、応用スポーツ心理学の立場からも、私は信じています…。



辻 秀一 (つじやういち) スポーツドクター

1961年東京都生まれ。北海道大学医学部卒業。東京医歯科大学で内科研修も修了。以来、スポーツ医学とスポーツ心理学を専門とする。現在エミネックス代表

としてさまざまな人のQOL向上をテーマに、病院や機関に対しチームドクターとしてカウンセリングやメンタルトレーニングでサポートしている (www.eminexcross.com, 03-5474-5755)。子どもたちの人間性を目的としたスポーツ塾「チームエミネックス」や女子バスケットボールチーム「No Excuse」、母の不安を解消する人たちのバスケット「Rough」、天皇杯優勝を目指すトップバスケットチーム「Excellence」、誰でもが参加できるストリートバスケット「エミネックスクラブ」などを運営するNPO法人エミネックス・スポーツワールドの代表でもある。またビジネス界、教育界にスポーツ心理学を「メソッド」として導入し、ビジネスマンや企業家もサポートしている。

主な著書に『スラムダンク勝利学』(集英社インターナショナル)、『人のためになる人、ならない人』(バジリコ社)、『藤さも強さに変えるせんぷコーチング』(講談社文庫)、『心の力コーチング』(講談社)、『ほんとうの社力』(日経BP社)、『演劇家のためのこころのレッスン』(集英社) など著書多数。